

広報 かみす

Kamisu public relations



2025年
1/1・15
No.428



神栖ディスカバリー

File
19

特集

南極観測隊

地域医療から極地へ



南極の昭和基地上空に現れたオーロラ。かつて神栖清生会病院に勤務していた医師が、現在、南極で活動しています。南極の医師から届いたメッセージを紹介します。

Pick up

市長・議長から新年のごあいさつ……………P2～3
息栖神社周辺地域振興拠点施設の愛称が決定しました！…P8
4月からの会計年度任用職員募集 ………………P10～11



市メールマガジン
はコチラ



広報かみすが動き出す
[COCOAR]アプリをダウンロード
し表紙にスマートフォンをかざし
てください。詳しくは14ページ



南極観測隊

地域医療から極地へ



がある。夏期間には夏隊・越冬隊合せて約100人が活動している

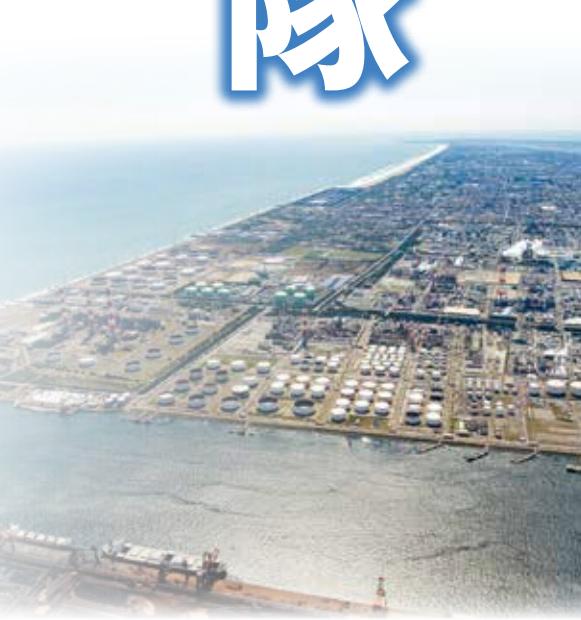
長い人では約1年3ヶ月にわたって南極に滞在し、さまざまな観測や研究をする南極観測隊。神栖済生会病院に勤務していた医師が、医療隊員として活動中です。仕事や暮らし、神栖市の子どもたちへ伝えたいことなど、南極から届いたメッセージを紹介します。

とある医師の特別なお正月

毎年、心新たに迎えるお正月。国や地域によって風習は違つても、「今年が良い年になりますように」という願いは同じです。ところで皆さんは、お正月をどこで過ごしていますか？ 実は神栖市の救急医療を担っていた医師が、日本から遠く離れた南極で今年のお正月を迎えていました。それは、神栖済生会病院に勤務していた小田有哉さんです。

小田さんは、なめがた地域医療セ

ンターに勤務していたときに神栖市の医師不足を知り、2021年に神栖済生会病院に着任。救急医療の分野で地域のために役立ちたいという強い思いを持って、交通外傷や労働災害によるけがなどをした患者さんの治療にあたつてきました。できるだけ断らずに救急搬送を受け入れるよう力を尽くした結果、救急車の平均搬送時間が短縮したり、病院の応需率が上がったりするなど、地域医療に貢献しました。さらに、地域とのつながりを大切にしており、市内



約14,000km先の海の
向こうに南極がある



神栖済生会病院(左)と同病院で勤務していた当時の小田医師(右)



①見渡す限りの大雪原とペンギン ②③南極観測船「しらせ」。厚さ1.5mの氷を連續碎氷できる世界屈指の碎氷船 ④南極観測隊として活動中の小田さん



さて、小田さんはなぜ南極を目指したのでしょうか？そもそも南極に興味を持ったのは、小学生の時に図鑑で南極の特集ページを見たのがきっかけでした。その後、大学の進路を決めるときに医学部か理学部か最後まで悩んだというほど、南極への強い思いを持ち続けていたようです。最終的に選んだのは医師の道でしたが、病院勤務をしているときに一つのニュースが小田さんの心を捉え

日本の南極観測の中心「昭和基地」。管理棟、観測棟、居住棟など約60棟の施設にも取り組んできました。小田さんは、神栖で勤務していたときの思い出を次のように述べています。「決して人手は多くありませんでしたが、重症患者が救急外来にいるときに、どこからともなく病院の仲間が集まってきて助けてくれるのがうれしかったですね。みんなが『地域のために』と同じベクトルで働けたことは大変貴重な経験でした」

な施設です。

地域に寄り添い、私たちの命と健康を守るために活躍していた小田さんが、今は約1万4000キロも離れた南極にいます。南極は、地球の南の果てにある氷の大陸。地球儀でいうと、ちょうど底にある部分です。世界各国が観測拠点を置いており、日本は1957年（昭和32年）に昭和基地を開設しました。世界の気象観測網の拠点にもなっている重要な施設です。

なぜ南極を目指したのか？

中学校での救命処置講習の実施などにも取り組んできました。



昭和基地とオーロラ。1957年に南極の東オングル島に昭和基地を開設



移動だけではなく除雪にも活躍する雪上車

冬は船も飛行機も近づけない

観測にかかる施設だけでなく発電施設などもある

ます。それは、「もし南極の氷が融けると、約60メートル海面が上昇する」という内容でした。改めて子どもころに興味を持った南極にチャレンジしたいと思い、南極地域観測隊の医療隊員に応募。2度目の応募で採用が決りました。

出発前は、昭和基地には歯科医がないため、歯科研修を受けて抜歯やかぶせもの再接着法を学んだり、同じく専門外である眼科検査機器の取り扱い方法を学んだりしたそうです。また、重機も取り扱えるよう、運転技能講習も受けました。さまざま準備を整え、いよいよ出発です。

南極から届いたメール

南極での仕事や暮らしは一体どういうものなのかな、想像もつきません。いろいろ質問したいとお願いしたところ、何と小田さんが南極から電子メールで返事を送ってくれました。地球の反対側から届いたばかりの南極での生活を、皆さんにご紹介します。

Q 昭和基地でどのような仕事をしていますか？

小田 医療隊員としては、隊員のけがの処置をしたり、歯の詰めものが

取れたときに再接着をしたりします。もし、昭和基地の中で対応しきれないような大きな病気になつても、冬の期間は船も飛行機も近づけず搬送できません。また、夏の期間に医療機関へ搬送できたとしても、1週間以上かかります。そのため、何より大切なのが病気の予防。3ヶ月に1度健康診断を行ない、その結果をもとに健康指導をすることで、隊員が大きな病気にならないよう予防しています。

ただ、医療隊員としての仕事以上に、昭和基地を維持管理する仕事が多くを占めています。主にブリザード（猛烈な吹雪）後の除雪や、生活飲料水を確保するため水槽に雪を入れる作業、氷山やクラック（裂け目）を避けて海水でつながった南極大陸に行ぐルートを作る支援などです。また、この記事を皆さんが読んでいるころ（2025年1月）には、おそらく私は昭和基地から約1000キロ離れたドームふじ観測拠点II（標高約3810メートル）にいるでしょう。約3カ月間、ドーム隊メンバーの健康管理をします。



